

## 第 1 回委員会における委員意見（まとめ）

## 1. 取り組むべき分野について

## ① 子育て

- ・子どもの多さを中原区の特徴として捉え、子育てを喫緊の課題と捉える発言が多かった。
- ・「親子の居場所」が一つのキーワード。
- ・世代交流、地域活動との結びつけなど、多分野との連携や視野の拡大を意識した発言もあった。

〔傾向〕

## 〔各委員の意見〕

- ・ 中原区では子育て支援へのニーズが高まっている。取り組んでいる方も多いが、まだ足りないという現状がある。（反町委員）
- ・ 武蔵小杉駅周辺の再開発エリアなどは特に子どもが多く、子どもの居場所や安心・安全が喫緊の課題になっている。（塚本委員）
- ・ 若い世代が多い中原区で、子育てに目を向けていく必要がある。子どもが小さいうちから取り組み、親も学んでいければ、大きな問題も未然に防げると思う。（中森委員）
- ・ 子育てについて取り組むことで大きな成果につながっていくのではないか。（井上委員）
- ・ 居場所がないと感じる子どもは、その親も地域に居場所がないと感じている場合が多いのではないか。子ども、親の居場所を地域活動と結びつけ、年配世代の方にも助けをいただきながら、企画できると良い。（長尾委員）
- ・ 預け場所がないとの相談が多い。自主保育や保育ママなどの利用も進めばよいと思うが、そのためには、信頼できる情報をうまく伝えていく必要がある。（松澤委員）

## ② 地域コミュニティ

- ・ 転入者の多さを中原区の特徴として捉え、再開発による大型集合住宅と古くからの地域の融合、地域の一体化に言及する発言が多かった。
- ・ 意識的に新旧住民の交流をしかけていこうという意見が出されている。

〔傾向〕

## 〔各委員の意見〕

- ・ 町内会に代表される従来のコミュニティと、マンションなどに代表される新住民のギャップを埋めるような新旧住民の取り組みができればよい。（塚本委員）
- ・ 多くの方が新たに住み始めているのが中原区の特徴。楽しく、幸せに暮らしていきたいという思いは共通認識だ。コミュニティが大切であり、住民同士の交流で解決できることが多いのではないか。（井上委員）
- ・ 町会活動への参加者が少ない。マンション住民になかなか参加していただけないこともあるようだ。町会活動を楽しくすれば、参加者も増え、交流も進むだろう。防災対策なども町会が基本になる。新旧住民の交流、地域の一体化を図りたい。（園部委員）
- ・ 中原区に住み続けたいと思ってもらうには、地域の支え合い、コミュニティが大切。例えば、大型マンション世帯の方にも町内会の役員になっていただいて、フロア単位などで活動していただければ、コミュニティができてくるだろう。（松本委員）
- ・ この 30 年で本当に便利なまちになってきたが、地域と関わらなくても、物事が済んで

しまうという状態もできている。意識的なつながりづくりを進め、中原の特徴になるようなイベントをつくっていけたらいい。(山崎委員)

- ・人がまちをつくるのだから、人をつくらなければだめだ。食育も、最終目標は豊かな人格形成だ。区民が同じ釜の飯を食うようなイベントをぜひ希望したい。(山崎委員)

### ③ その他

- ・複数意見があげられた課題として、交通、ごみ排出マナーなどがあった。
- ・外国人、障がい者、教育、緑に関する意見も出された。

#### 〔各委員の意見〕

##### 【交通関係】

- ・自転車や交通が多いので、事故をなんとか減らしたい。(石川委員)
- ・自転車のマナーや違法駐輪の問題がある。「駐輪しても構わないが、撤去されてしまいますよ」など、警告の表現の仕方です自転車の数が減ったという話も聞いた。(松澤委員)
- ・前回の準備会議の時に、子どもの交通安全がとても気になった。(園部委員)
- ・駅の混雑が毎朝ラッシュ時は特に激しく、ホームから人が落ちそうなくらいだ。(梶川委員)

##### 【ごみ排出マナー】

- ・ごみ集積所の状況が地域によって差がある。防鳥ネットなども活用し、綺麗に管理されている所がある一方で、だらしくゴミがはみ出ているような所もある。(仁上委員)
- ・ごみを出すときのモラル、マナーの問題がある。集積所の清掃や片づけなどを当番制でやっていくことなどが大切だと思う。(松澤委員)

##### 【防災】

- ・個人情報保護が壁になって災害時要援護者の避難支援の地域での把握、民政委員の働きかけなどが思うように進んでいない。個人情報の扱いをある程度緩めることができるか。(田中委員)

##### 【その他】

###### 外国人

- ・中原区は市内でも2番目に外国人が多い。外国人にも目を向け、様々な問題の解決に取り組んでほしい。(中森委員)

###### 障がい者支援

- ・障がい者の方たちが外へ出ていくためのまちづくり。例えば段差の少ない、外出が苦にならないまち。様々な障害を持つ方々1人1人の意見を伺って、皆さんがそれに対して協力していただけたらありがたい。(仲亀委員)

###### 教育

- ・家庭の中の教育がきちんとされていないということに今の子ども不幸があるのではないか。(梅原委員)

###### 緑

- ・商人のまちは緑が少ない。どうしても緑を多くしてもらいたい。(石川委員)

## 2. 分野横断的なテーマの捉え方

- 分野を個別に捉えるのではなく、横断的につながりの中で捉えた視点や意見も出された。
- 事務局が示した「分野横断テーマ」の例の中から「地域支え合い」「情報（魅力）発信」などに関する発言が複数見られた。

### 〔各委員の意見〕

- みんなが輝けるまちになれば良い。広い分野の方々と一緒に取り組み、中原のまちや活動の魅力発信になればよい。(萩原委員)
- 新旧住民の交流と子育て支援をつなぐやり方として、魅力発信があるのではないか。大型商業施設の進出がある今こそ、地元商店街の楽しさや温かさ、行事などをお伝えしながら、他の取組ともつなげていく。例えば、子育て支援を商店街で行う。世代間交流、新旧住民交流、子育て、魅力発信などもうまく絡めていけると良い。なかはらメディアネットワークの活動なども活かして展開できると良い。(反町委員)
- 防犯パトロールや、災害時要援護者支援などを、「地域支え合い」というくくりでつながりのある捉え方をするのは良いと思う。この「地域の支え合い」を最初に議論していただけるとありがたい。(尾木委員)
- 子どもも増えているが、高齢者も増えており、中には、認知症の方も増えている。かつては安全・安心のまちづくりという形でつながってきた活動もある。「地域の支え合い」というテーマで持ってくればつながっていくのではないかと。(松本委員)

## 3. 区民会議のあり方、進め方のイメージなど

### 〔各委員の意見〕

- 区民会議が区民に身近で「すてきなことをやっているね」と認知される活動になればよいと思う。(萩原委員)
- 一発のイベントで終了とはならないようにしたい。モデル的な事業展開など探りたい。(塚本委員)